

平成29年度 第1回学校協議会議事録（要旨）

- 1 日時 6月21日（木）16：00～18：00
- 2 場所 本校校長室
- 3 出席者 津嶋会長、乾委員、宇田委員、真銅委員、豊田委員、村田委員
鈴木校長、高木教頭、竹中事務長、芥川首席

4 次第

- (1) 開会
- (2) 会長あいさつ
- (3) 平成29年度学校経営計画及び学校評価について
- (4) 平成30年度使用教科書用図書の選定について
- (5) 閉会

5 協議・意見交換

平成29年度「学校経営計画及び学校評価」について

「全般」

- ① 学校教育自己診断として年2回程度、生徒・保護者・教職員からアンケートを取る予定。
アンケートの結果を経営計画評価指標にある数字などが達成できたかどうかの判断根拠にしたい。
- ② 通学区域が府下全域となったことから、全校生徒134名のうち、3名が大阪市外から通学してるが、学校がある大阪市内の生徒が多くなる傾向は今後も大きくは変わらないものと考え。そのため、生徒の状況を考える際、大阪市の小中学校の状況や文化を考慮する必要があり、これが本校の特色となるところもあると思う。
- ③ 「共通」の授業3分野の一つに「健康・体力」がある。これは、他にはなく、本校の特色の一つだといえる。

「教育課程の編成」

- ① 今年度は、「専門教科」等で各コースの枠を超えた共同学習に重点的に取り組む。販売の機会も増やしたい。

- ② 各授業で指導と評価の年間計画（シラバス）を作成し、3年間の継続性や系統性を持たせた指導ができるようにしたい。

「組織力の向上」

- ① 教員間のコミュニケーションをテーマとして取り組む。
- ② 授業研究では、昨年度から継続して、自己肯定感を高める指導の研究に取り組む。今年度も教育センターのパッケージ研修に採用していただき、指導主事の指導・助言も得て、授業力の向上を図る。また、本校独自のアセスメントについても研究する。
- ③ 臨床発達心理士による相談を行っており、そこから学ぶ研修を考えている。

「就労先の確保とデュアルシステムの確立」

- ① 1期生全員の就労先の確保、卒業時の進路決定をめざす。そのため3年生は相手先との関係で個別に実習を行うことがある。

「難波支援学校や地域、関係機関との協働」

- ① なんば・なにわ祭を今年度も両校の合同で行う。
- ② ホームページを変更し、積極的に情報発信をする。
- ③ 今年度も各学年で高等学校との交流を計画している。

〔協 議〕

校長：学校教育自己診断の授業アンケートについて。昨年度の反省を踏まえ、今年度は保護者からの回収率を上げたい。

委員：学校経営計画の評価指標にある数値目標は何か基準があるのか？

校長：前年度の達成状況や今年度の目標をもとに学校で決めている。

委員：生徒のアンケートに自由記述欄はあるか？生徒によっては自由記述でこそ自分の意見が書けるという生徒もいると思う。

校長：前回いただいたみなさんの意見を踏まえ記入欄を作成する予定である。

委員：定期の授業公開以外にも授業参観日はあるか？

校長：4月に保護者参観、7月10日から14日まで授業公開、11月14日に学校公開を予定している。授業公開等では、事前にアンケート用紙を配布することとあわせ、来校当日に

記入できるように用紙を準備し、回収率をあげたいと考えている。

委員：そのほかに個人懇談もあるのではないか？

教頭：懇談会は各学期末に設定している。

委員：個人懇談には保護者が必ず来校されるので、その日を活用してアンケート記入を依頼するのも回収率UPにつながると思う。

校長：懇談は4月下旬、7月下旬、10月中旬、2月下旬に実施予定である。

教頭：それ以外に実習前の面談もある。

委員：保護者は結構来られている。

校長：もっと気軽に記入していただける形にできればと思う。できるだけ授業を見ていただく回数を増やしたい。

委員：学校経営計画を作成する過程で教職員がどれくらい関与しているか？

校長：土台となる部分は各学年や校務分掌等から出された自己評価と課題を踏まえ作成している。

その後、計画としてまとめたものを、案として教職員に提示すると同時に教育委員会の指導も受けながら作成している。

委員：自己肯定感の向上をめざす指導に取り組んでおられるが、自己選択・自己決定について、取り組んでいることはあるか？進路を考える時期になってはじめて自己決定を求められても、それまでに経験がなければしにくいと思うが。

校長：自己選択・自己決定には自己責任が伴うという風潮が一部にあるようだが、それを生徒に求めているわけではなく、自分が選ぶチャンスがあるとか、自分で決めることができるという経験を増やしたいということを主眼として取り組んでいる。自己肯定感を高め、自己理解を深めることを通して3年間で等身大の自分を知ることができると自己選択ができるようになるのではないかと考えている。例えば、昨年度から始めたことだが、2年生の現場実習先を決める際、求人票のように仕事内容等が書かれたものを廊下に貼り出し、希望を募っている。希望があれば保護者にも見ていただき保護者とも話し合っって選ぶことで自分を知る、考える機会になればと行っている。

委員：仕事によっては、自分がやった経験があることしか選ぶことができないことがある。もう

少し事前に、例えば学校行事や地域交流等で実行委員をするとか、そういったところから経験を増やしていくといいのではないか。

委員：貼り出された一覧を実際見たが専門的な言葉が多いように感じ、これだけで子どもたちは本当に決められるのかと思った。

委員：別に求人票について説明を聞く学習もあるのではないか。

校長：事前に座学の学習として行っている。

首席：求人票には、求める人物、業種、駅からの距離等の情報が示されていて、それについて教員もアドバイスをしている。生徒によっては今まで経験したことのない業種を選ぶこともあり、選んで実習に行ってみた結果、イメージと違っていたとか、思っていたよりもよかったとかの感想が生徒から聞かれ、選択・決定する経験をしている。

校長：先ほどお話のあった実行委員についてだが、まさに、6月の体育祭で自分で実行委員をやりたいと選択した生徒が活躍する場面がたくさんあった。

委員：教育活動の中でそういう場面を増やしてあげたい。

委員：貼り出された求人票から選ぶ際、子どもによっては希望する理由が、この実習先ならこの路線に乗れるからという理由であることもあり、親の考えとは食い違うことになってしまう。普段から日常生活の中で自分で決める場面を増やすことが大切だと思う。

委員：選択・決定については、信用する、信頼するというのも大切。間違っていていい。自分が経験をして気づいていく。学校は失敗させないように安全な方向に導くことが多い印象がある。学校は、やり直しがきくような失敗をすることができる、そういう場であってほしい。そのような仕掛けをしてほしい。

校長：それはお互い理解しあって一定の指導力があるうえで成り立つともいえるだろう。できるようにしたいと思う。

委員：ほめるということに関して。子どもたちは、ほめられることはあっても、ほめることをあまり知らないのではないか。ほめられると気持ちいいけど、ほめることによって相手も気持ちよくなる。些細なことでもめる方を見ていると、みんなそれぞれ良いところがあることを認める、そういった経験がないように思う。ほめるということをや若いうちから経験させたい。

ほめることははじめは恥ずかしいが、それができたら人間関係が良くなるのではないか。

平成30年度使用教科用図書選定について

校長：資料は今年度を使用している教科書の一覧と30年度使用予定の教科書選定に関し校内で検討している一覧である。次回、11月の学校協議会時には教育委員会会議で採択された一覧をご覧いただく予定。音楽に関し、本校では生徒の状況や授業の目的などから教科書を使用せず、いわゆる自主教材で生徒に身近な題材を取り上げて授業を行っている。これに関しては来年度も同様に考えている。その他の教科等では、教科書に3年間使用するものと1年間のみ使用しているものがある。

教科書を使用している教科等でもほとんどで教員が自作教材を作成し授業を行っている。

まとめ

3年目を迎えたが、まだまだ課題もある。今後ともお力添えをお願いする。

本校の特色や今後の方向性について考えるにあたり、例えば、高等学校ではエンパワーメントスクールといわれる学校などに療育手帳を持つ障がいのある生徒が通っている。そこでは、中学校までの内容を含め、毎日帯時間で繰り返し学習していると聞く。そのような学校と高等支援学校との違いは何なのかなど職員の間でも話題にってきている。そのようなことを考えるのも本校の将来像を考える観点の一つとなると思う。委員のみなさんには今後ご意見をいただきながら本校の教育活動を支えていただけたらと思う。